

設計理念、造営手法、歴史、地域性、建築、
置物、装飾、各地の実例……。
中国庭園の全てを満載した画期的辞典。

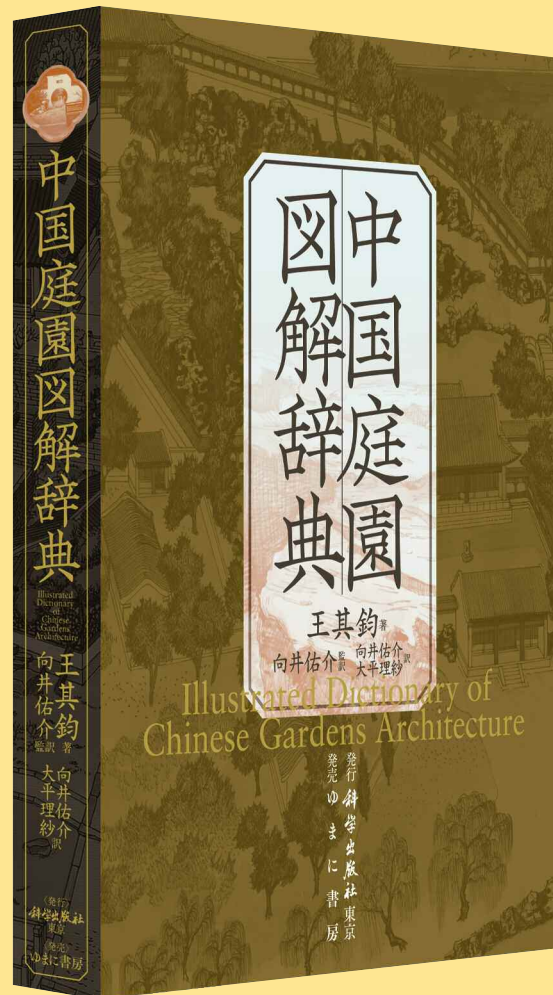
中国庭園 図解辞典

刊行予定
2024年6月下旬

〔編著〕王其鈞 中央美術学院建築学院教授

〔訳〕向井佑介 京都大学人文科学研究所

大平理紗 日本学術振興会特別研究員（P.D.）



B5判上製／カバー装／オールカラー・300頁（予）
●定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-6704-9 C1070

目次から

- 第一章 庭園設計
造景／点景／綴景／障景／借景／遠借／近借／実借／虚借／仰借ほか
- 第二章 庭園の類別
皇室庭園／私邸庭園／風景庭園／寺院庭園／秦代庭園／漢代庭園／南北朝庭園／隋唐庭園／宋代庭園／明清庭園ほか
- 第三章 庭園建築
庁堂軒館／扁作庁／円堂／鴛鴦庁／四面庁／花庁／門庁／轎庁／荷花庁ほか
- 第四章 庭園小品
盆景／盆景石／樹盆景／樹石盆景／草石盆景／松石盆景／海參石／諸葛拜斗石／木変石／石卓ほか
- 第五章 庭園鋪地
鋪地材料／鴛卵石鋪地／幾何紋鋪地／水裂紋鋪地／盤長紋鋪地／五福捧寿鋪地／葉紋鋪地／鹿紋鋪地／金魚紋鋪地ほか
- 第六章 外部造作
洞門／月亮門／瓶欄門／海棠門／漏窓／空窓／什錦窓／琉璃欄杆／美人靠ほか
- 第七章 内部造作
花罩／飛罩／天簷罩／落地明罩／屏風／折屏／画屏／曲屏／紗隔／博古架ほか
- 第八章 家具
八仙桌／円卓／半円卓／琴卓／折疊卓／太師椅／玫瑰椅／方凳／開光墩ほか
- 第九章 彩色画
和璽彩画／旋子彩画／金線大点金／墨線大点金／墨線小点金／石碾玉／金珠墨石碾玉／蘇式彩画／金珠墨蘇画／海漫蘇画
- 第十章 天井・藻井・花罩・平棋・平棋／平閣／井口天花／花草平棋／团龍平棋／円形藻井／八角藻井／盤龍藻井／晋祠難老泉亭藻井ほか
- 第十一章 匾額・対聯・陳列品
横扁／豎扁／華帶牌／此君聯／蕉葉聯／古琴聯／書／画／珉瑤／掛屏ほか
- 第十二章 庭園彫刻・牌坊
石彫欄杆／石刻書画／埤塘牌坊式門樓／埤塘漏窓／埤塘扁額／木彫罩／頤和園雲輝玉宇坊／頤和園知魚橋坊／虎丘坊
- 第十三章 庭園の実例
環秀山莊／拙政園／留園／芸圃／獅子林／怡園／滄浪亭／耦園／寄暢園ほか

ゆまに書房 YUMANI SHOBOU

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail: eigyoku@yumani.co.jp



中国古典庭園 園冶図解 えんや ずかい
〔著〕呉肇釗 ●定価：本体26,000円＋税 ISBN978-4-8433-6428-4 C1070
造園理論書のバイブル、中国最古で最高の造園専門書『園冶』初の図解を翻訳。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493		年 月 日	※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	中国庭園図解辞典		取扱店	部
	定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-6704-9 C1070			
お名前				
ご住所				
TEL ()				

中国庭園 図解辞典

日本庭園をより深く理解し、
中国庭園を基礎から
学ぶことのできる辞典。

▼編著▲王其鈞 中央美術学院建築学院教授

〔訳〕向井佑介 京都大学人文科学研究所
大平理紗 日本学術振興会特別研究員（P.D.）

Illustrated Dictionary of
Chinese Gardens Architecture

発行：科学出版社東京／発売：ゆまに書房

『中国庭園図解辞典』

日本語版の刊行にあたって

庭園散策の道しるべ

向井 佑介

中国庭園には不思議な魅力がある。庭園内に足を踏み入れると、石を積み重ねた山があり、奇妙な形の太湖石や樹木があちこちに置かれ、池に臨んで建てられた亭からそれを観賞する。曲がりくねった小道の路面には、綺麗な石とタイルを組み合わせたさまざまな紋様があらわされ、その上をゆつたりと散策する。漢詩に詠まれ、水墨画に描かれた情景が、そこにある。このように、現在の私たちが思い浮かべる中国の古典庭園は、文人の精神――「詩情画意」を体現したもので、日本庭園とは異なった情趣がある。庭園ごとにそれぞれ個性があり、また地域と時代ごとに流行形式が異なるとはいえ、その設計には一定の約束事がある。本書は、こうした中国庭園の設計理念・造営手法から、その歴史と地域性、園内の建築・置物・装飾、そして各地の庭園の実例にいたるまで、あらゆる事柄を解説する辞典である。

著者の王其鈞氏は、北京の中央美術学院において教授を務める建築学者である。その著作は、中国の古建築・庭園のみならず、現代建築、さらには西洋建築にまで及んでいる。画家としても著名で、その作品は油彩画を中心として、水彩画・水墨画など多岐にわたり、とりわけ建築を描いた絵画は高い評価を得ている。その学術研究と芸術創作の活動は相互に関係し、本書を含めた王其鈞氏の著作には、彼自身が描いた多くの挿絵が掲載されている。この辞典には七五〇以上の項目が収録され、そのほぼすべてに手描きの挿絵や写真

が添えられている。一般的に、辞典の見出し語の配列には、アルファベット順や五十音順、漢字の筆画順などが用いられるのに対し、この辞典はそうではない。内容ごとに章をわけて各項目を解説していくという手法をとる。その章立てもよく工夫されており、感覚的に目次をたどっていけば、自然と必要な情報にたどり着くことができる。辞書として知りたい項目を検索するだけでなく、一冊の書籍として頭から順に読んでいくのもおもしろい。

中国庭園の設計理念や用語には、日本の庭園と共通する部分が少なくない。例えば、「借景」は中国庭園の基本的な設計手法であると同時に、日本の伝統的な庭園でも多く用いられ、一般によく知られた概念である。京都嵐山の天龍寺や北山の鹿苑寺（金閣寺）の回遊式庭園をはじめとして、日本の著名な庭園は、借景なくして成立しえない。また、日本の伝統文化の一つとして世界的に知られる「盆栽」は、中国庭園において古くから用いられてきた「盆景」から発展したものである。中国の庭園は、人工的に山と水を配置し、理想化した自然を限られた空間のなかにあらわしている。こうした庭園の基本理念は、最古の造園書である平安時代の『作庭記』にも記され、日本を含む東アジア各地の庭園の設計思想に通底する。

このように本書は、庭園に関心をもつ日本の読者にとって、中国庭園を基礎から学ぶための入門的辞典であるだけでなく、日本庭園をより深く理解するための参考書にもなりうるはずである。中国庭園についてまとめた日本語の書物は、過去にいくつか出版されているとはいえ、その数は少なく、現在では入手困難なものも多い。とりわけ初学者や愛好者が利用可能な辞典となると、これまで日本において利用できるものはほとんど存在しなかった。本書は、庭園を愛し、芸術を愛する著者が、同じく庭園に関心をもつすべての読者に贈る芸術的辞典であり、中国庭園の世界を探索し、散策するための道しるべである。

【特色4】日本庭園の理解にも

中国庭園の基本的な設計手法である「借景」や、日本の盆栽のルーツである「盆景」など、日本庭園をより深く理解するための参考書として。

【特色5】幅広い読者の方へ

庭園の設計・研究に従事する庭園景観、建築学、室内設計を専門とされる方から、中国庭園の初学者・愛好者など中国庭園を基礎から学びたい方まで、幅広くおすすめ。

本文見本

50%に縮小してあります

滄浪亭 (Cāng lǎng tíng そうろうてい)

滄浪亭は蘇州の現存する最古の古典庭園で、現在の蘇州城南の三元坊に所在する。滄浪亭園の園門外には滄浪亭街があり、入口には滄浪勝跡石坊があり、これが園内へと導入する役割を果たし、またランドマークとなっている。坊前には一筋の溪



小園 (xiǎo yuán しょうえん)

なかの独立した小園慈泉の西側に位置するに蘇州の状元・洪鈞が設計し、完成ののち当時は、蘇州山莊は虎丘園といえ、虎丘のもる。それは山の地勢にりて宜しきを削して作すもすばらしく、景観南北の長方形に近い形番からなる台地上に、亭・月舞軒・樵園・松を配している。



小園 (xiǎo yuán しょうえん)

位置し、清の光緒年間た私園である。それは

土石混合山 (tǔ shí hùn hé shān どせきこんごうざん)

中国の古典庭園における築山の材料には石と土がある。しかし、石だけ、土だけで築成した築山は、その数においても及ばない。自然界では、積山に適した石材を求めても探し出すことは容易ではなく、また価格も安くはない。そのため、掘山に



1. 土石生草

2. 山洞

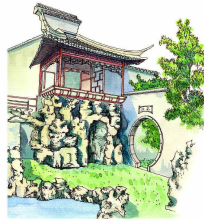
3. 松

4. 独立石峰

5. 山上小亭

6. 水

蘇州でも最も小さな庭園で、面積はわずか140㎡あまり、園内には一池・一山・一亭と数本の樹木を配するのみである。ただし、中国古典庭園の造園要素は欠いておらず、山あり水あり建築あり花木あり、遊覧も観賞もでき、また中国の庭園設計と景観に求められる境地と美観を豊富に備えている。あるいは、このような小さな範囲内に中国古典庭園の理想の境地を表現しうることこそが、この庭園の特徴であり、賞賛を受ける所以であるといえよう。



寄暢園 (jì chāng yuán きょうえん)

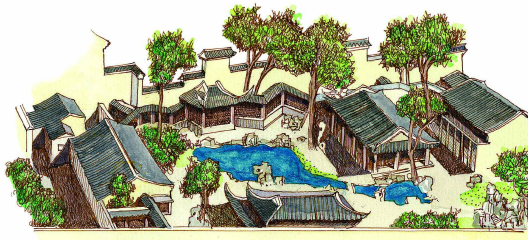
寄暢園は無錫市西郊の錫惠公園内に位置する。錫惠公園の園中の園である。それは明の正徳年間の兵部尚書・秦金の造営した私園である。秦金は無錫鳳山の人で、自ら鳳山と号し、建造した小園の名も鳳谷行窩とした。それは自身の号にあわせた

だけでなく、古人の隠居の意でもある。この園がのちの寄暢園であり、秦氏の子孫である秦燾により改名された。秦燾は官を離れて帰田したのち、小園を大きく拡張し、かつ王羲之の詩「登樓楸」のなかの「取飲仁智湫、寄暢山水陰」から「寄暢」の二字をとって園名とした。この時期は園の全盛期で、建築景観は数十か所あり、それぞれに特徴があり、名の聞こえた景観も少なくない。



鶴園 (hè yuán かくえん)

鶴園は蘇州韓家巷の西口にあり、清の光緒年間、に、官として視察した洪鑑汀が韓家巷に建てた邸宅である。邸宅の西に園を建設し、それを「鶴園」と名づけた。園内には方形の池を穿ち、水は平らかにして鏡のごとく、高低さまざまな入り乱れた築山を積み、巖かで美しく独特である。さらに亭・台・廊・館を建て、花・草・樹・木を植え、山水・亭台・花木は相互に映え、景観はひっそりと美しく非凡である。鶴園の面積は大きくないとはいえ、配置は無駄なくまとまり、環境は奥ゆかしく上品で、特徴的である。



鶴園

した石は、山体の外観的印象を豊かにし、観賞する際に視覚の上で大きな刺激を生む効果がある。
5. 山上小亭：亭類建築はどこに建ててもよいが、特に水辺や山石の上に建てるのがよい。小亭が山石上にあることで、自然と人為、観賞と休息との対比を生み、築山の情趣をさらに豊かにしてくれる。
6. 水：庭園に自然山水の趣を表現しようとするれば、山と水がなくてはならず、中国古典庭園においてはしばしば壘山の近所に池を穿って水を蓄え、山水が共存する景観がつくれる。水にはま

た山石の倒影を映し、自然が見え隠れするさまをあらわす効果がある。

【特色1】中国庭園に関する用語を750項目以上収録

庭園設計、庭園建築、庭園の置物、庭園装飾、庭園の実例など、中国庭園とそれに関係する専門用語、750項目以上を収録。

【特色2】テキストとビジュアルの見事な融合

建築学者であり画家としても高名な著者による、充実した解説文と丁寧に手描きされた挿図や写真を豊富に掲載。

【特色3】日本語で読める貴重な文献

日本語で読める中国庭園に関する書籍が少ないなか、高い学術性に裏付けられた入門的辞典として最適。